

6. 養蚕副産物の家畜飼料価値に関する研究

畜産部 武田 晃・田中豊実・山岸広三 担当

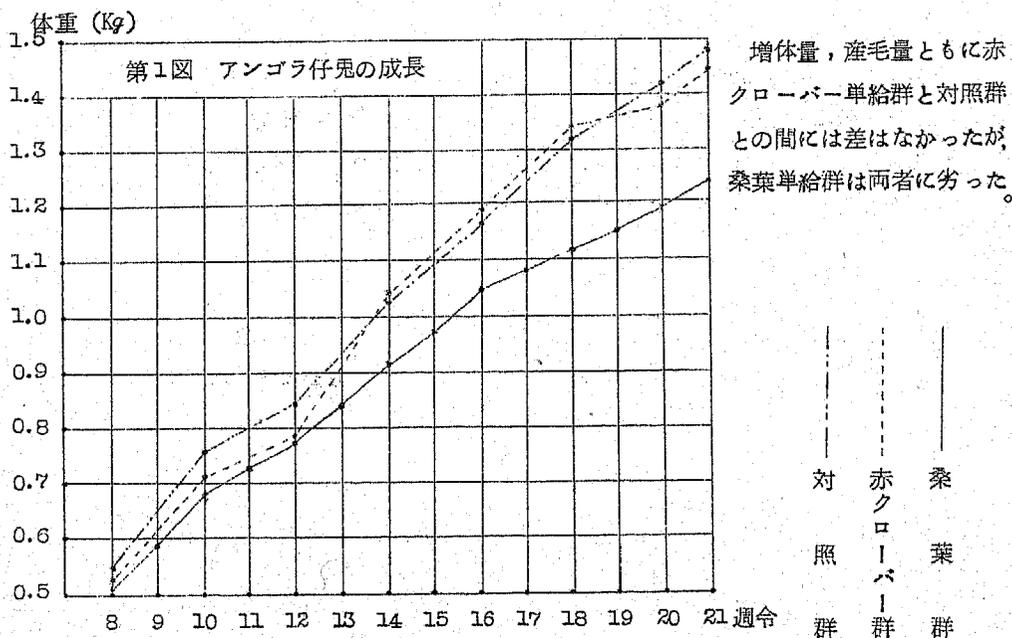
(1) アンゴラ仔兎の成長および産毛に対する桑葉単給試験

桑葉および赤クローバーの単給がアンゴラ仔兎の成長や産毛に及ぼす効果を検討した。アンゴラ仔兎春産2腹12頭(雄6, 雌6)を3群に分け, 8週令より21週令まで毎日の採食量, 毎週の体重を測定し, またその間6月25日から9月17日までの産毛量を調べた。

桑葉および赤クローバーは飽食させ, 対照群は野草を飽食させた上に濃厚飼料(糠2, 玉蜀黍1)を成長に伴い10~25g給与した。給餌は朝夕2回に行い前回の残量を計量して採食量とした。

第1表 採食量・体重・産毛量の平均値(各群4頭)

	採食総量(g)	体 重 (g)			産 毛 量 (g)	
		開始時 (6月25日)	終了時 (9月17日)	増体率(%)	剪毛量(g)	体重1Kg当
桑葉群	21,120	504.2	1,240.0±110.8	248.5±18.1	27.62±2.07	22.46±1.33
赤クローバー群	28,973	510.3	1,460.0±98.9	286.7±10.9	37.37±2.05	25.82±1.62
対照群	22,570 3,518 (濃飼)	533.2	1,487.0±40.7	276.5±13.8	39.37±1.65	26.65±1.06



(2) 残桑葉粉末の中雛育成飼料試験

秋季における被霜残桑葉の飼料的価値を検討するために本試験を行った。残桑葉は11月下旬に採取し、乾燥して粉末とし、麩に代替して下記の配合飼料を調製した。100日令のロックホーン種雌雛50羽を2群に分け、6週間試験飼料を与え、その後の3週間は再び対照群と同一飼料に戻した。

1日1羽当りの給餌量は60gとし貝殻・野草は飽食させた。

桑葉粉配合飼料

玉蜀黍	25
米糠	17
桑葉粉	20
魚粉	10
小麦	25

対照の麩配合飼料群は試験期間を通じ全量を採食したが、桑葉粉配合飼料群は喰い残す傾向があり、体成長も桑葉粉群が劣ったが対照群と同一飼料に戻してからは、次第に回復した。このことより被霜桑葉粉は麩より飼料的価値は劣ると推察される。

体重 (kg) 第1図 雌雛の成長

